

環境報告書 2014

Environmental Management Report 2014



九州大学附属図書館
Kyushu University Library

CONTENTS

1	トップメッセージ	1
2	附属図書館概要	2
3	環境方針	3
4	組織・体制	4
5	環境活動の評価と目標	5
6	環境活動状況	6
6.1	環境活動	6
6.2	資源・エネルギー（電気・ガス・重油・水道・ゴミ等・資源リサイクル等）	7

1. トップメッセージ

先般の大飯原発運転差止請求事件判決はその終わりの部分で「被告は本件原発の稼働が電力供給の安定性、コストの低減につながると主張するが、当裁判所は、極めて多数の人の生存そのものに関わる権利と電気代の高い低いの問題等とを並べて論じるような議論に加わったり、その議論の当否を判断すること自体、法的には許されないことであると考えている。このコストの問題に関連して国富の流出や喪失の議論があるが、たとえ本件原発の運転停止によって多額の貿易赤字が出るとしても、これを国富の流出や喪失というべきではなく、豊かな国土とそこに国民が根を下ろして生活していることが国富であり、これを取り戻すことができなくなることが国富の喪失であると当裁判所は考えている。」と述べています。

種々の考え方の錯綜する時代ですが、極めて重い言葉と言えましょう。

一方、地球温暖化の問題は深刻さの度を増しており、社会全体として様々な観点からの環境への配慮・対応が強く求められています。温暖化の影響は、本学が位置する九州をはじめとした各地の温度上昇、少雨傾向、気流、海流の変化など、様々な面に誰の目にも明らかな形で現れてきています。

また、地球環境の問題はこうした面のみにとどまらず、隣国をはじめとした地域から飛来する大気汚染物質、あるいは上で述べて原子力を中心としたエネルギーの問題、資源枯渇の問題など、数多くの問題を挙げる事ができるでしょう。現在の状況は、世界レベル、国家レベルでの対応のみならず、個人が真にこの問題に向き合わねば、今後100年、200年の地球の未来に深刻な影響が及ぶ、あるいはもはや回復が不能になる瀬戸際の段階にきていると言ってよいでしょう。

それ故、各人が所属する職場、我々が所属する大学のような教育研究機関においても、率先してそれに取り組むことが必須の時代であることを強く認識しなければなりません。環境問題への対応には、その深刻さの学生、職員への周知・徹底、エネルギー問題にとどまらない、ゴミ資源回収、各部局との連携等々を通じての省資源の実行がこれまた必須です。

附属図書館は、学生・教職員の学習・教育・研究を支援する組織であり、利用者サービスの向上を目指し日々活動しています。開館時間の延長やその年の天候等により光熱水量の消費が増加することもあります。利用者のみなさまのご協力とご理解を得ながら、徹底した省資源対策に取り組んでいます。

本年も、今回の「環境報告書 2014」を基に、大学が推し進める環境対策と歩調を合わせながら、今後も持続可能な省資源運営と環境問題に積極的に取り組んでまいりたい所存です。



平成26年7月 日

九州大学附属図書館長 川本芳昭

2. 附属図書館概要

事業所名 国立大学法人 九州大学附属図書館

所在地 中央図書館 〒812-8581 福岡市東区箱崎6丁目10番1号
TEL 092-642-2337(資料サービス係)

医学図書館 〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1番1号
TEL 092-642-6037(閲覧係)

芸術工学図書館 〒815-8540 福岡市南区塩原4丁目9番1号
TEL 092-642-4427(情報サービス係)

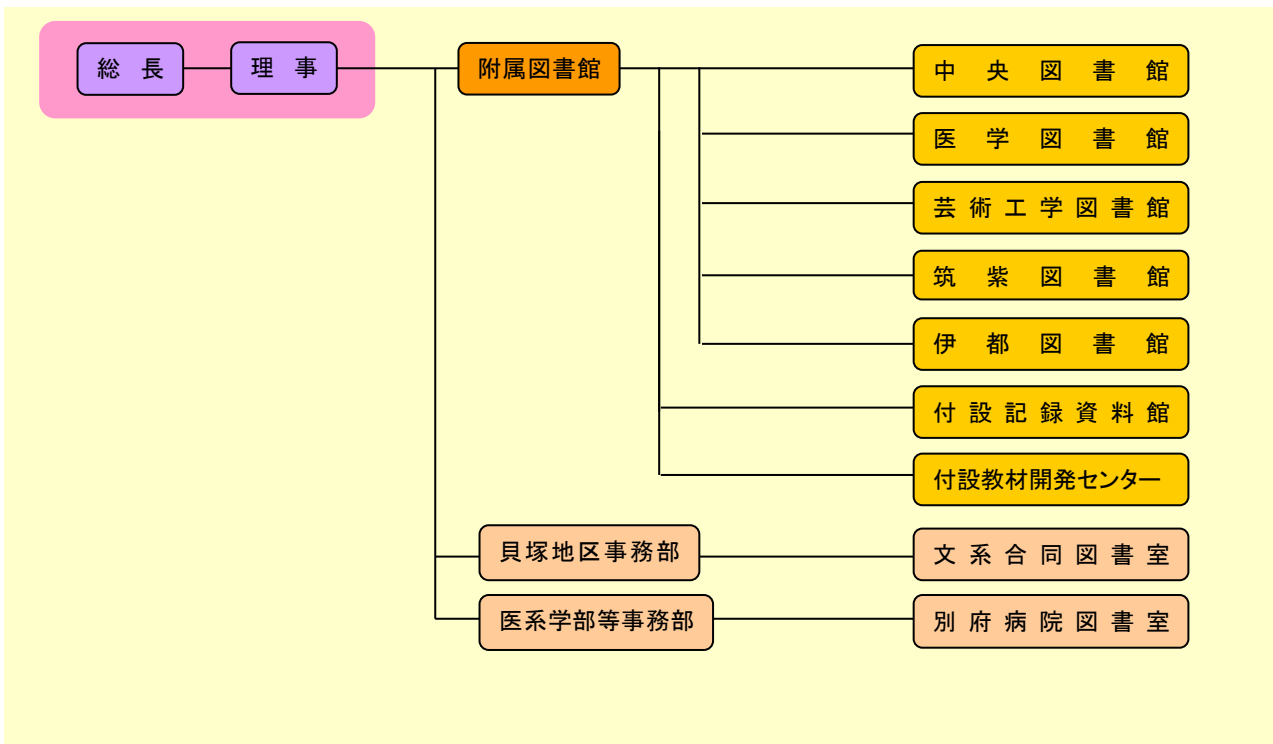
筑紫図書館 〒816-8580 春日市春日公園6丁目1番地
TEL 092-583-7020(図書係)

伊都図書館 〒819-0395 福岡市西区元岡744番地
TEL 092-802-2450(利用サービス係)

URL <http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/>

設立 1922年(大正11年)9月 九州帝国大学附属図書館設置

附属図書館の組織(平成26年7月現在)



構成員 職員:135名(うち 事務補佐員60名)

報告期間

「環境報告書2014」に記載している内容は、主に2013年度(平成25年4月1日~26年3月31日)の取り組み、実績値※を中心にまとめており、一部に、平成26年7月までの取り組みが含まれています。

※各種統計データは、中央図書館及び伊都図書館の集計値を計上しています。。

3. 環境方針

附属図書館は、『九州大学環境方針』に基づいて、環境問題に取り組んでいます。

【九州大学環境方針】

基本理念

九州大学は、地球未来を守ることが重要な課題であることを認識し、環境に配慮した実践活動を通じて、地球環境保全に寄与する人材を育成するとともに、地球に環境負荷をかけない社会を実践するための研究を促進する。

活動方針

九州大学は、以下に掲げる活動方針に従って、環境目的、目標、及び計画を定め、環境活動の実施状況を点検・評価することにより、継続的環境改善を図ることとする。

(環境マネジメントシステムの構築)

1. 全学の他、各部局等においても環境マネジメントシステムを構築し、環境に配慮した活動に積極的に取り組み、環境に優しいキャンパスの実現を目指す。

(構成員)

2. 学生及び教職員は、本学に関係する事業者や地域住民とともに、環境に配慮した活動に取り組み、本学はこれを支援する。

(環境に関する教育・研究の充実)

3. 地球環境に関する教育カリキュラム及び環境負荷低減のための研究を、総合大学としての特長を生かして充実させ、地球環境の保全に寄与する。

(法令遵守等)

4. 本学におけるすべての環境活動において、法令を遵守し、環境汚染の防止や温室効果ガスの削減等に努める。

(コミュニケーション)

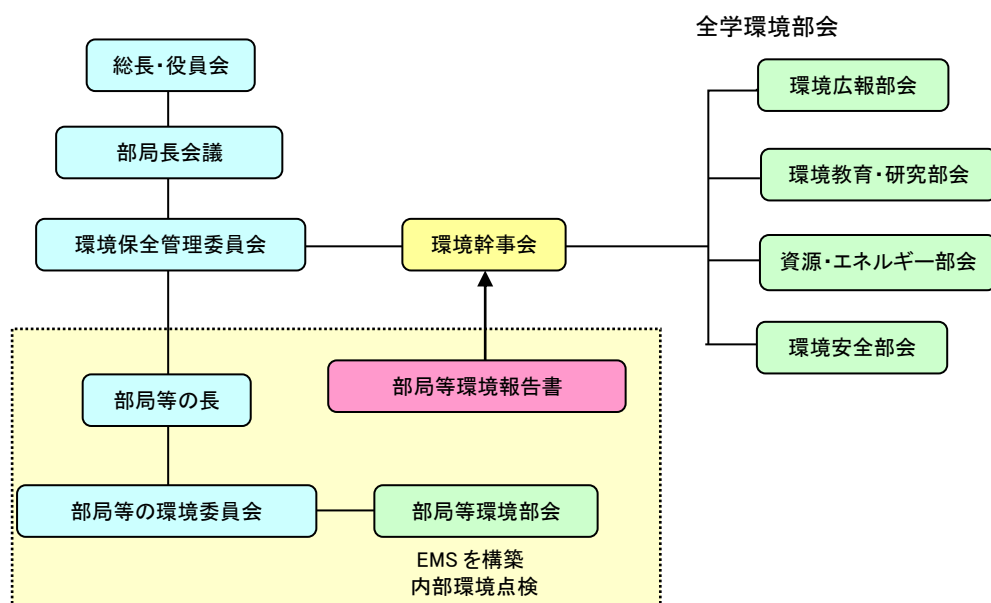
5. 環境に関する情報を学内外に伝えるため、環境報告書を作成、公表する。作成にあたっては法令に関する重要な情報を虚偽なく記載することにより信頼性を高める。

この環境方針は、すべての学生、教職員及び関係事業者に周知させるとともに、ホームページ等を用いて広く開示する。

4. 組織・体制

平成17年4月1日に施行された「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律」(環境配慮促進法)を受け、本学では、「環境保全管理委員会」(委員長: 環境安全衛生推進室長、委員: 各部局の選出教員等)の下に、環境広報部会、環境教育研究部会、資源エネルギー部会及び環境安全部会の4つの部会が設けられています。

各部会の事務運営には、本部事務局で当たることとし、各々の部会に最も関係の深い部署を主管部署としています。各部会は、環境保全管理委員会委員2、3名、事務局の主管部署、関係部署数名及び各部局の担当職員で構成しています。



1. 環境広報部会	3. 資源エネルギー部会
WEB サイト等による環境報告書の公開	資源・エネルギーの使用量の把握、削減対策
環境関連の公開講座、社会連携事業の把握	ごみの分別、古紙回収
環境月間行事の通知と取材依頼	グリーン購入・調達
環境配慮型新キャンパスの紹介	生協等、関連事業者との環境活動
2. 環境教育研究部会	4. 環境安全部会
環境関連の授業の充実、研究の推進	化学物質の管理、集計、報告
環境関連のシンポジウム、講演会の推進	廃液・有害廃棄物の処理
新入生に対する環境・安全教育	環境汚染調査
学生参加の環境保全関連活動支援	雨水・再生処理水の利用促進

附属図書館の環境部会メンバー	
環境広報部会	附属図書館 図書館企画課 企画係長
環境教育・研究部会	附属図書館 利用支援課 サービス企画係長
資源・エネルギー部会	附属図書館 図書館企画課 会計係長
環境安全部会	附属図書館 図書館企画課 会計係長

5. 環境活動の評価と目標

附属図書館における、環境活動の平成25年度の具体的な取り組みと平成26年度の目標を以下に示します。

事項	平成25年度の具体的な取組	平成26年度目標
組織・体制	<ul style="list-style-type: none"> ・環境活動報告書を作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境活動報告書を作成する。 ・環境マネジメントシステム(EMS)の体制を構築する。
温暖化対策	<p>深刻な電力不足の状況を踏まえ、社会的責任を果たす観点から積極的に電力の使用抑制に取り組むこととし、利用者へも節電への理解・協力を求めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・閲覧室・書庫の照明間引き(書庫は約4割減) ・部分閉室による空調稼働時間の縮減 ・昼休みの一斉消灯の励行 ・OA機器等の待機電力のカット 	<p>政府の電力需要の抑制の求めに対し、大学が決定した節電対策に積極的に取り組むとともに、前年度同様利用者への節電理解と協力を求める。</p>
資源・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・年に数回、館外の清掃活動を実施した。 ・館内各所にペットボトル用のゴミ箱を設置し、分別を徹底させた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・駐輪場及び駐輪禁止区域を整備する。 ・資源の有効活用を図る。

6. 環境活動状況

6.1 環境活動

(1) 館外の環境美化

附属図書館では、環境月間の行事として館外の清掃活動を実施しています。

中央図書館では、毎年6月の環境月間(または5月)及び9～10月に各1回、清掃活動を行っており、図書館職員による除草作業、空缶、空瓶、ペットボトル、タバコの吸殻等のごみ拾いなどを行い、図書館周辺の環境保全に積極的に取り組んでいます。また、各図書館等においても、学内の環境月間に合わせて、清掃活動を実施しています。

(2) 平成25年度 ごみの分別に関する環境点検

分別置き場に出されている可燃ごみの袋や室内の可燃ごみ分別容器等を点検対象とし、混入している資源化物や不燃ごみの重量を計測しました。

※ 古紙として資源化可能な「紙切れ」として、割り箸の袋、たばこの箱、名刺、ハガキ等があります。

点検結果 単位 : Kg

点検日	点検参加者		点検対象の重量	混入していた資源化物				混入していた 不燃ごみ
	教職員	学生		紙切れ	缶	ビン	その他	
H26.1.16-17	2	0	38.50	2.90	0.00	0.00	0.00	0.01
合計	2	0	38.50	2.90	0.00	0.00	0.00	0.01

6.2 資源・エネルギー(電気・ガス・重油・水道・ゴミ等・資源リサイクル等)

(1)平成 25 年度のエネルギーや廃棄物等に関するデータ

附属図書館における、平成25年度のエネルギーや廃棄物等に関するデータは次のとおりです。

※a、b 以外は中央図書館のみの数値

a) エネルギー ※中央図書館+伊都図書館

電気	1,510,923	kWh
ガス	52,896	m3
重油	72,900	L
延床面積	23,538	m2

b) 水 ※中央図書館+伊都図書館

市水	6,602	m3
井水		
再生水		
下水道	7,416	m3

c) 用紙

A4 換算	381	千枚
-------	-----	----

d) 古紙

新聞	1.10	トン
段ボール	0.50	トン
雑誌雑紙・他	4.30	トン

e) 廃棄物

	重量		処理法
可燃ごみ	2.7	トン	廃棄
粗大ごみ			

f) 分別ごみ

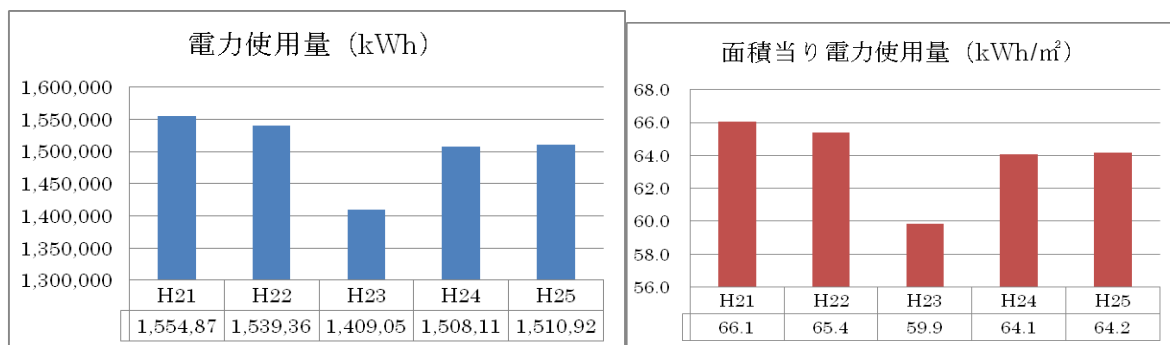
	重量		処理法
金属・缶	240.0	kg	再生
瓶	180.0	kg	再生
ペットボトル	384.0	kg	再生
発砲スチロール	-	kg	
蛍光管	228.0	kg	
乾電池	-	kg	
スプレー缶	-	kg	
不燃ごみ	137.3	kg	埋立

(2) エネルギー消費量や廃棄物排出量等の推移

附属図書館における電力、都市ガス及びA重油の消費量について現状を把握し、今後の削減計画や方針を検討します。下表は、電力、都市ガス、A重油についての過去5年間のデータをまとめたものです。

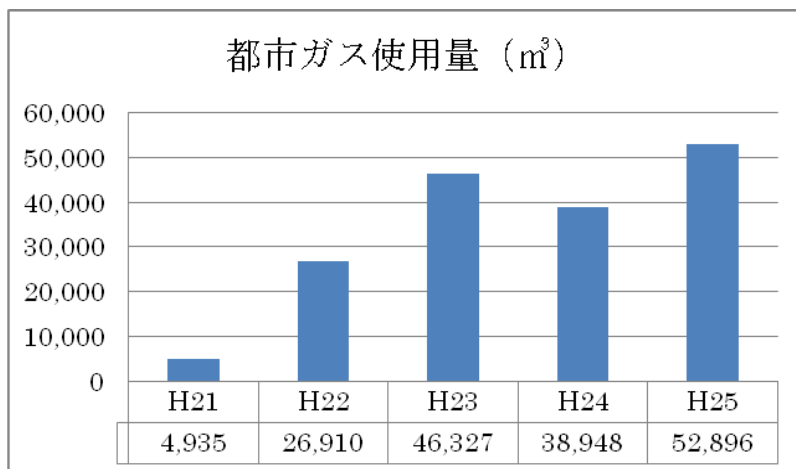
※伊都図書館の増築により、平成21年度より延床面積が20,152㎡から23,538㎡に増加しています。

【電力】 中央図書館＋伊都図書館



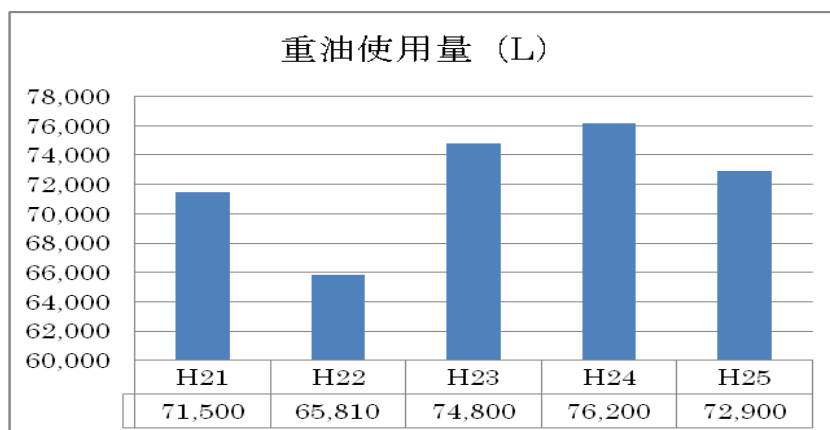
電力不足に伴う節電対策により、伊都図書館は電力使用量が減少した。(前年度比は0.28%減)
伊都図書館は、23年度前半のメーター検針の誤り分を含めた比較により電力使用量が増となった。

【都市ガス】 中央図書館＋伊都図書館



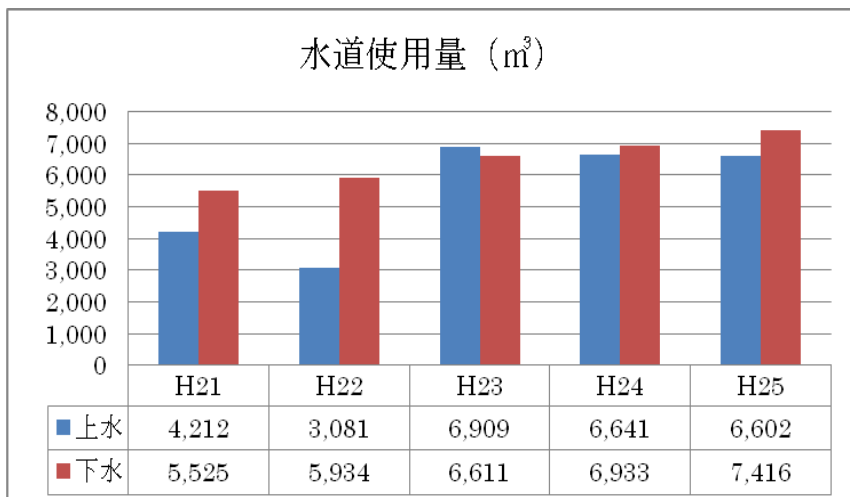
伊都図書館が増築オープンし、平成22年度夏にはじめて冷房(閲覧室空調に都市ガス使用)を稼働させ、さらに23年度夏より冷却塔を稼働させたことから、ガスの使用量が大幅に増加したが、24年度は室温管理の徹底により少し減少した。

【A重油】 中央図書館



A重油は、主に中央図書館の冷暖房設備に使用しています。夏の気温が大きく左右され、25年度は9月に気温が高温とならない日が多くなったため、使用量が少し減少したのと思われます。

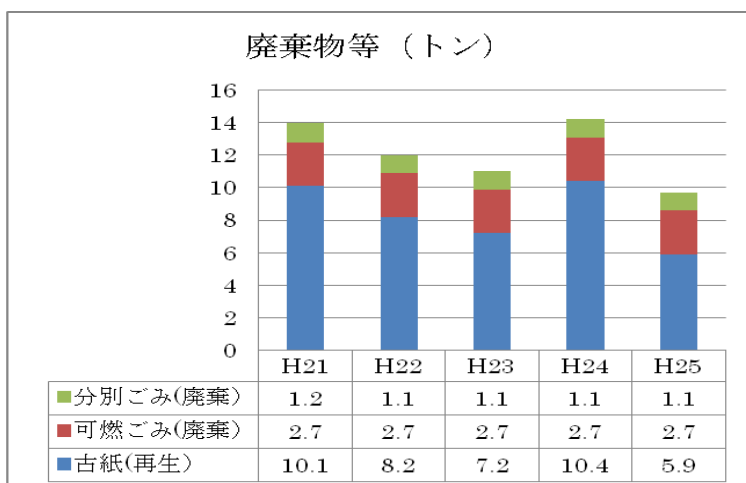
【水道】 中央図書館+伊都図書館



下水の方は、年を追う毎に増加しています。これは、利用者数の増加と比例しています。

上水の使用量は、貯水槽の清掃、冷房運転前の点検作業等の施設維持作業により相当影響しているものと思われます。

【廃棄物】



廃棄物の排出量は、平成 25 年度については古紙、廃棄図書等の回収量が大幅に減少しました。

(3) エネルギー起源の二酸化炭素排出量

エネルギーを燃焼させ、二酸化炭素として地球上に放出し続けることにより、気温が上昇します。二酸化炭素は、地球温室効果ガスとされています。

附属図書館における各エネルギー消費に際しての、二酸化炭素の排出量は次のとおりです。

二酸化炭素の年間排出量 単位:トン
-CO₂

エネルギー	H21	H22	H23	H24	H25
電力	862.96	854.35	782.03	837.00	838.56
都市ガス	11.65	63.51	109.33	91.92	124.83
A 重油	193.77	178.35	202.71	206.50	197.56
合計	1,068.37	1,096.20	1,094.07	1,135.42	1,160.96

CO ₂ 排出係数
0.555 t-CO ₂ /MWh
2.36 t-CO ₂ /千 m ³
2.71 t-CO ₂ /kL

エネルギー発熱量

単位:GJ

エネルギー	H21	H22	H23	H24	H25
電力	15,502.09	15,347.46	14,048.29	15,035.91	15,063.90
都市ガス	227.50	1,240.55	2,135.67	1,795.50	2,438.51
A重油	2,795.65	2,573.17	2,924.68	2,979.42	2,850.39
合計	18,525.25	19,161.18	19,108.64	19,810.83	20,352.80

換算係数
9.97 GJ/MWh
46.1 GJ/千 m ³
39.1 GJ/kL

(4) エネルギー消費抑制に向けた取り組み

附属図書館は、学生・教職員の学習・教育・研究を支援する組織であり、利用者サービスの向上を図り、できるだけ多くの利用者に長時間利用していただくことを大きな目的としています。

開館時間の延長や閲覧施設・設備の整備、その年の天候等により光熱水量が増加することもあります。常に費用対効果を意識し、利用者のみなさまのご協力とご理解に努めながら省資源対策に取り組んでいます。

省エネルギーへの具体的な取り組みとしましては、

- ・ 通常期・休業期の部分閉室による空調稼働時間の縮減
- ・ 昼休みの一斉消灯及び不要部分の消灯の徹底
- ・ OA機器等の待機電力のカット(スタンバイ状態のカットなど)
- ・ 空調機使用前及び定期的な空調機フィルターの清掃
- ・ 書庫照明の消灯、間引き
- ・ 書庫の照明器具の省エネタイプへの切り替え
- ・ 無人開館時の冷暖房の限定運転(医学図書館)

などを実施しています。